

子ども読書支援センターニュース No.154

2017. 3. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成29年4月4日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《3月のおはなし会で使った本》

『ちょうちょうひらひら』 まどみちお/文 にしまきかやこ/絵 こぐま社 2008

『きんぎょがにげた』 五味太郎/作 福音館書店 2009

『はるだよおきて』 千世繭子/脚本 あべ弘士/絵 童心社 2014

『ぴょん』 まつおかたつひで/作・絵 ポプラ社 2004

★「土の中の生き物しらべ」

○日時：平成29年4月23日（日）13：30～15：30 ○会場：山口県立山口図書館 第1研修室

○内容：土の中や落ち葉の下にかくれている小さな動物たちを顕微鏡やルーペで見てみよう。

○対象：小学生（3年生以下は保護者同伴）○定員：15名（要申込み・先着順）○参加費：無料

○持参品：移植ゴテ、雨天の場合は雨具

★「春のスペシャルおはなし会」

○日時：平成29年4月30日（日）11：00～11：40 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○内容：エプロンシアター、パネルシアター○対象：幼児（3歳児～5歳児程度）○定員：30名（要申込み・先着順）

○参加費：無料

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

＜絵本－乳幼児から＞

『ゆうびんやさんのココリさん』 中川ひろたか/作 市原淳/絵 講談社 2017.1 ¥950

ココリさんは、にわりのゆうびんやさん。朝、目を覚まし、うがいをして、屋根の上で「コケッコー」と鳴いたら早速お仕事。自転車で、町の人々にお手紙を届けます。ある日、ココリさんは、自分がお手紙出しました。そして、お返事待ってます。さて、お返事はくるかな…。動物たちがゆかみに楽しくらす町「ハッピータウン」シリーズ第3弾。

＜絵本－3、4歳から＞

『なにたべているのかな？』 とよたかずひこ/著 アリス館 2017.1 ¥900

あ、いぬさん。なに食べているね。がつつ、ペロペロペロン。全部食べたんだね。あ、ねこさん。なに食べているね。ぱりぱり、ペロペロペロン。全部食べたんだね。あ、たろうくん。もぐもぐ、食べたあ。あれあれ、おさらになんじんが残ってるね、どうしようかな？食べ物好き嫌いがあっても、少しずつでも頑張って食べようという気になれる1冊。

＜絵本－5、6歳から＞

『なかないで、アーサー』 エマ・チチェスター・クラーク/作・絵 こだまともこ/訳 徳間書店 2017.1 ¥1600

ある朝、老犬のデ이지ーはベッドの中で亡くなった。飼い主のアーサーは、その死を受け入れられず、悲しんでばかり。その様子を天国からみていたデ이지ーは、アーサーの夢の中で天国の様子を伝えることに。1つ目の夢では天国がどこにあるかを、2つ目の夢では天国で楽しく過ごしていることを。そして3つ目の夢では…。英国の人気絵本作家が温かいタッチで描いた、心に響く絵本。

＜絵本－小学校低学年から＞

『カイとカイサのぼうけん』 エルサ・ベスコフ/さく・え まつむらゆうこ/やく 福音館書店 2016.11 ¥1300

いつもドラゴンのような形をした枯れ木にとびのって遊んでいたカイとカイサ。ある日二人が、枯れ木ドラゴンに壊れた傘を取りつくと、急にドラゴンが舞い上がった。いたずらトムテがこっそり枯れ木ドラゴンに魔法をかけていたのだ。スウェーデンを代表する絵本作家によるファンタジー。1923年スウェーデンで出版、日本での出版は今回が初めて。「世界傑作絵本シリーズ」の1冊。

『ぼくはスーパーヒーロー』 メラニー・ウォルシュ/作 品川裕香/訳 岩崎書店 2017.1 ¥1600

ぼくはスーパーヒーロー、アイザック。特別な脳みそをもってるから、好きなことならいくらでも覚えて、話せるよ。おかしい顔をした人がいたら、どこが変か教えてあげることができる。でも、それは、やめたほうがいいとママは教えてくれたよ。アスペルガー症候群という発達障害を持つ男の子の行動の特徴を特別な力として表現し、その行動を理解し、接し方を教えてくれる作品。

＜絵本－小学校中学年から＞

『ちいさなあなたがむる夜』 ジーン・E. ペンジウォール/文 イザベル・アルスノー/絵 河野万里子/訳 西村書店 2017.2 ¥1400

北の国のしずかな夜。そっと降りだし積もった雪。鹿の親子はりんごの木に残った実をかじります。2匹の白ウサギは、おにごっこやかくれんぼを楽しみます。朝方には、霜に頼んで、窓にすてきな飾りを描いてもらいましょう。幼い息子が眠りについた後、寝顔を見守りながら、大自然の鼓動を感じ、描かれたような作品。ニューヨークタイムズ最優秀絵本賞、カナダ総督文学賞をダブル受賞。

『リターン 洞くつ壁画のまほう』 アーロン・ベッカー/作 講談社 2017.1 ¥1500

描いたものが実際にあらわれる、魔法のマーカーをもつ少女。まずは、部屋の壁にドアを描き、多くのランプが灯る森の中へ。次に、少女を追いかけたババと共に、王様の待つお城へ。お城に現れたのは、魔法のマーカーを奪おうとする謎の兵士たち。冒険は、水中、壁画の残る洞窟へと続く。コルデコット賞オナーブックの『ジャーニー』、『クエスト』に続く文字なし絵本第3作。

＜読み物－小学校低学年から＞

『いたずらこやぎと春まつり』 松居スーザン/作 出久根育/絵 佼成出版社 2017.2 ¥1200

長い冬が終わって、いたずらこやぎのハイジとペーターは、初めての春をむかえる。おばあさんと町へ買い物に出かけると、「町の春まつり」のポスターが、おどりに大道芸、手回しオルガンとなんだかとても楽しそう。春祭りの日、友だちのトロールと町に出かけたこやぎたち。ところが、大さわぎしたせいでまつりは、めっちゃくちゃなことに…！「おはなしみつけた！」シリーズ。

『サンタクロースのはるやすみ』 ロジャー・デュボアザン/ぶん・え 小宮由/やく 大日本図書 2017.2 ¥1400

クリスマスが終わり、家でおもちゃ作りをしていたサンタクロース。春の花が見たくなり、正体を隠し町へ出かけることに。旅行用の服を着て、目的の町へ。ところが、町の子どもたちが「このおじいさん、サンタから、おひげと赤いはなをぬすんじゃった」と騒ぎだした。泥棒呼ばわりされたサンタさん、正体を明かすわけにもいかず…。コルデコット賞受賞のスイスの作家による作品。

<読み物一小学校中学年から>

『水の森の秘密』 岡田淳/作 理論社 2017.2 ¥1700

こそあどの森に昔から生えているプニョプニョタケ。煮ても焼いても食べられなかったのに、トマトさんとスマレさんが発見した調理法で絶品に変身。森のみんながプニョプニョタケを探し出した頃、地下から水が湧き出すようになり、森は水浸しに。いったい何が起きているのか？スキッパーは、その原因を探りに出かける。1994年に始まった「こそあどの森の物語」シリーズ最終巻。

<読み物一小学校高学年から>

『ぼくとベルさん』 フィリップ・ロイ/著 榎田理絵/訳 PHP研究所 2017.2 ¥1400

10歳の少年エディは、読み書きが苦手。やっとな書いた字も乱れて読むことができない。家族も先生も諦め加減で、エディに多くを望んでいなかった。ある日、エディはひよんなことから、同じ町に住む、電話を発明したグラハム・ベルに出会い、失敗してもよくよしないことを教わる。左利きやディスクレシアへの理解が深まるようにと願いをこめ、史実を考慮して書かれたフィクション。

『銀杏堂』 橋春香/作・絵 偕成社 2016.12 ¥1600

通学路にある骨董屋「銀杏堂」と、その女主人の高田さんのことが気になってしょうがない小学生のレンちゃん。ある日、勇気を出して店の扉を開けてみると、そこには想像以上にたくさんの物がいっぱい。高田さん自慢の品々の一つ一つには、めくるめく冒険物語が秘められていた。イラストレーターである作者の、カラーイラストが美しい、14編のファンタジー物語。

<読み物一中学生から>

『ぼくのとなりにきみ』 小嶋陽太郎/著 ポプラ社 2017.2 ¥1400

父の期待を裏切る運動音痴の僕。中学で美術部に入学するも幽霊部員。親友ハセは探検や冒険が忙しくて部活に入らない。そんな二人が夏休みの最終日に洞穴で見つけた謎の暗号調査に挑む。クラスでちょっと浮いてる女の子も仲間に入り…。友人関係、親子関係に戸惑いながら成長する男の子の心情を、謎解きの面白さとともに描く。『朝日中高生新聞』連載を加筆・改題し単行本化。

<ノンフィクション一小学校低学年から>

『サイレンカー』 小賀野美/監修 ポプラ社 2017.2 ¥1000

サイレンカーとは、災害や事件、事故といった緊急の時に赤色灯をつけ、サイレンを鳴らして現場に向かう車のこと。私たちの身の回りで活躍するサイレンカーの中でも、特に消防と警察の車を中心に、はたらきや仕組みを解説し、その周辺で活躍する人の仕事も紹介。最新の美しい写真で迫力たっぷり。「超はっけんりもの大図鑑」シリーズ。他に『はたらく車』『新幹線』あり。

<ノンフィクション一小学校中学年から>

『iPS細胞を発見!山中伸弥物語』 上坂和美/著 PHP研究所 2017.2 ¥1400

2012年、ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥先生。好奇心旺盛で実験好きな少年であったが、医師になって自分の不器用さに悩み、研究者として薬理学に携わることを決める。人の3倍働き、あきらめず、粘り強く研究し続けること、レジリエンス（困難に合った時でも、竹のように柔らかく、しなる心）をもつことの大切さを伝える。「PHP心のノンフィクション」シリーズ。

<ノンフィクション一小学校高学年から>

『きちんと知ろう!アレルギー』(全3巻) 坂上博/著 海老澤元宏/監修 ミネルヴァ書房 2017.1 ¥2800

ある特定の物質が原因で起こる体の反応「アレルギー」。このアレルギーの基礎情報やその症状・対策を理解し、アレルギーをもつ人の辛さも知ってほしいとの思いから作られたシリーズ。ルビつきで、用語解説も丁寧。2016年11月現在の最新の情報を提供。『アレルギーってなに?』(第1巻)『食物アレルギーとアナフィラキシー』(第2巻)『ぜんそく・アトピー・花粉症』(第3巻)。

<ノンフィクション一中学生から>

『命の意味命のしるし』 上橋菜穂子・齊藤慶輔/著 講談社 2017.1 ¥1200

国際アンデルセン賞作家賞受賞作家・上橋菜穂子が、野生動物の獣医師・齊藤慶輔と対談。「なぜ物語を書くのか」「なぜ治したいと思うのか」と互いの仕事についての質問を通して、野生動物との共生の道を探し続けてきた獣医師の生き方と作家の描く世界が重なっていく。NHK Eテレ「SWITCHインタビュー達人達」をもとに書籍化。「世の中への扉」シリーズ。

『そして、ぼくは旅に出た。 はじまりの森ノースウッズ』 大竹英洋/著 あすなろ書房 2017.3 ¥1900

『ノースウッズの森で』(福音館書店)など、子ども向けの写真絵本も手がける自然写真家によるエッセイ。18年前、写真家を決意した著者は、尊敬する写真家を訪ねるべくわずかな手がかりをもとにノースウッズへの旅を決行。克明な旅行記録と共に、写真を志し、大自然を選んだ若き日の思いを熱く語る。『ナショナルジオグラフィック日本版』のウェブ連載に加筆し書籍化。

『先生、それで「量子」の授業ですか?』 大関真之/著 小学館 2017.2 ¥1400

研究者が、専門用語も難しい数式も使わず、光から私たちの身体、そして宇宙までを構成する小さな粒「量子」の世界を案内。レーザーポインタの光を縦長の細い穴を通すと「縞模様」ができる!?ニュートリノを人間の目で見える?!ドラえもののひみつ道具は量子の世界で可能か?宇宙と生命の成り立ちから最新の研究がもたらす未来の可能性まで、小さな粒の世界から解き明かす。

<研究書>

『子どもの本のよあけ 瀬田貞二伝』 荒木田隆子/著 福音館書店 2017.1 ¥3200

瀬田貞二の担当編集者として没後も『落穂ひろい』『児童文学論』などを手掛けた著者が、瀬田貞二自身の文章や関係者の言葉を多く引用しながら、彼を知らない世代の人々にその偉大な功績や人柄を紹介する。東京子ども図書館主催の講座をもとに書籍化。『児童百科事典』の時代から始まる彼の仕事を集大成したその講座をそのまま聞いているような文体で読みやすい。著述リストあり。

『先生が本(おはなし)なんだね 語りの入門と実践』 伊藤明美/著 小澤昔ばなし研究所 2016.11 ¥1600

長年、公立図書館司書を勤め、現在は小澤昔ばなし大学の語り講師を務めながら小学校・保育園などで昔話を語り続けている著者が、実体験を紹介しながら「お話し」についての考えをまとめた書。語りの意義やお話選び、プログラム作りなどの初心者向けの入門編と、伝統芸能に学ぶ、再話の比較など、よりよく語るための実践編で構成。巻末にお薦めの昔話絵本と昔話集を紹介。

『ともに明日を見る窓 児童文学の中の子どもと大人』 きどのりこ/著 本の泉社 2017.1 ¥1600

子どもの視点で語られ、多様な大人が登場する「児童文学」の魅力を、大人にも読んでほしい古今東西の児童書36冊を取り上げて紹介。子どもたちと共に社会を告発する『さらばハイウェイ』、子どもたちが大勝利を収めた『チョコレート戦争』など、作品に描かれる大人にスポットを当て、作品や作者について解説する。月刊誌『子どものしあわせ』連載を加筆修正し再構成。

【県内の動き】

★児童文学わいわい講座

- 講師：村中 李衣氏（児童文学作家）
- 日時：平成29年4月8日（土）10:00～12:00
- 会場：山陽小野田市立中央図書館 2階 第1会議室
- 定員：20名程度
- 参加費：無料
- 照会先：山陽小野田市立中央図書館（TEL:0836-83-2870）

※子どもの本や読書についてのイベント情報をお寄せください。